

第3節 みんなが協働して環境保全に取り組んでいるまちをつくる

現状と課題

豊かな自然に恵まれた八王子の環境を守り育て、私たちの身近な環境をより良くしていくためには、一人ひとりが環境について考えるとともに、市民や事業者が協働して環境保全に取り組むことが大切です。

地域住民が一体となって環境への取組を推進するため、自然体験講座など地域に根ざした環境教育・環境学習を推進するほか、環境に関する様々な情報を提供しています。

今後は、地域特性に応じた環境教育・環境学習をより一層、充実させることが求められます。

また、環境保全に対する意識を高め、環境保全活動への参加につなげるため、様々な媒体により、環境に関する情報を提供・収集していきます。

第1項 環境教育・環境学習の推進 — 学びは一生の宝物 —

成果指標

指標名	計画策定時	中間目標 (H30)	最終目標 (H35)
「エコひろば」における講座の受講者数	3,696人	5,000人	6,500人

(指標のねらい)

環境に関する講座を受講することにより、環境問題への意識の向上や地域での環境保全活動につなげます。

1. 環境教育の充実

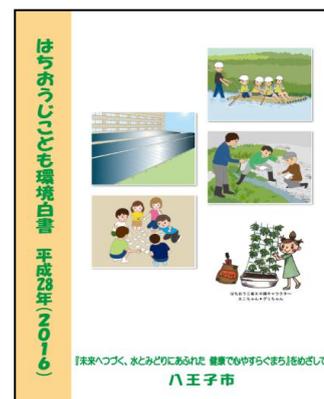
(1) 教員の環境教育への意識向上

未来を創る子どもたちが、身近な環境とのふれあいから環境に関心をもち、様々な体験を通して環境への理解を深め、環境保全への行動力がもてるよう育成することを目標に「学校教育における八王子市環境教育基本方針（第二次）」を22年度に策定し、学校において環境教育を推進しています。

この目標を実現させるための取組として、学校ごとの環境教育全体計画及び年間指導計画に基づいた環境教育の実践を行っています。また、夏季教員向け研修（指導力パワーアップ研修）で環境教育をテーマにした研修会を実施するとともに、環境教育の小中一貫教育指導資料を活用し、教員の環境教育に関する指導力の向上を図りました。

(2) 環境教育に関する冊子の作成

「学校教育における八王子市環境教育基本方針」に規定された環境教育目標である「環境問題に関心を持ち、環境問題を解決する行動力を持った人」を育成するため、「はちおうじこども環境白書」を作成しました。身近な八王子の環境に興味を持ち、「みどり」、「ごみ・資源」、「水」及び「地球温暖化」といった分野で、自ら取り組むことができることを考え、学校のみならず家庭での実践につなげることを目指します。



また、これまで同様、ごみの減量やリサイクルの意識を育てるための「きれいなまち八王子」と川への関心を高めるための「川と友だちになるノート」をそれぞれ作成し、はちおうじこども環境白書とともに市立小学校4年生に配付しました。

(3) 学校や地域特性に応じた環境教育の推進

市民・事業者が環境について関心を持つきっかけづくりと、環境保全活動団体などが地域に根差した活動をするための拠点として、市では17年1月、北野余熱利用センターに八王子市環境学習室「エコひろば」を開設しました。

学校や地域特性に応じた環境教育の推進のため、エコひろばでは市立小中学校の総合的な学習の時間などを使って行われる環境学習に対して、環境教育支援を行っています。これは、地域特性を活かして活動している環境市民会議をはじめ、環境学習リーダーや環境診断士を学校に派遣し支援することにより、地域の人材を活かしつつ環境教育の充実を図っています。27年度は、小学校19校、中学校1校で実施し、計4,315名の児童・生徒が参加しました。



環境教育支援事業「まとめ発表会」

2. 環境学習の拡充

(1) 環境学習の推進

市では、環境学習の拠点である「エコひろば（環境学習室）」で、環境に関わる講座やイベントなどを開催しています。27年度は延べ47,900名が来場しました。そのほか、環境に関する図書や器材の貸し出しなども行い、環境学習の実施を支援しました。

また、市では中核市移行による権限を活用し、「体験の機会の場」の認定事務を開始しました。体験の機会の場の認定制度とは、「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律（環境教育促進法）」に基づき、自然体験活動などを行う場を都道府県知事等（政令指定都市・中核市の場合はその市長）が「体験の機会の場」として認定する制度です。

27年度は全国で13例目、都内では初の事例として佐川急便「高尾100年の森」を認定しました。



人力発電レーシングカーレース
（エコひろばの講座）

(2) 環境学習・啓発活動の展開

産官学民の協働によるイベントとして、「はちおうじの環境をみる・きく・考える」をメインテーマに毎年環境月間である6月の第1土曜日に開催している「八王子環境フェスティバル」を6月6日に開催しました。

当日は、八王子駅北口西放射線ユーロードと南口とちの木デッキ上を会場に66のブースが出展し、延べ55,0



環境フェスティバルの様子

00人もの来場者でにぎわいました。

環境関連の出展はもとより、ご当地キャラクターやタレントが出演してのバラエティーショーや燃料電池機関車の乗車体験など、子どもから大人まで一日環境に触れ合いながら楽しんでいただきました。

このほか、市では身近な環境や自然に興味を持つきっかけづくりとして、環境市民会議などの関係団体と協力し、講座などを開催しました。

また、学習会などに市の職員が講師として伺い、講義や説明をする「はちおうじ出前講座」を開催しています。環境関連の講座では、「始めよう！あなたにもできる温暖化防止の取組」、「生ごみをたい肥に『ダンボールコンポストのすすめ』」など5講座を27年度に実施し、環境教育・環境学習を支援するとともに、環境意識の向上を図りました。



浅川をイカダで川下り

27年度講座などの開催状況

名称	内容	参加者数
自然体験講座	地域の自然環境を身近に感じてもらうため、浅川や滝山など各地区内での講座を環境市民会議と市の協働により開催（計12回）	延べ351人
農業体験	農業にふれあう稲作体験	13組 36人
	じゃがいも掘り	37組 138人
	農業ツアー	12組 24人
	さつまいも掘り	31組 111人
林業体験	クリスマス・リース作り	20人
「八王子浅川水辺の楽校」	町会・自治会をはじめ、市民団体や漁協などの関係団体と市で組織する「八王子浅川水辺の楽校」で、浅川の環境を学ぶ「水辺のかんきょう教室」などを開催（計3講座）	延べ660人

3. 環境保全に精通した人材の育成・活用

(1) 人材育成と環境指標

ア. 環境診断士と環境指標「ちえっくどう」の普及・活用

市民・事業者が自ら環境について調べ、行動していくための手引書として身近な環境診断「ちえっくどう」は、多くの市民に活用されています。

この「ちえっくどう」による環境診断を行う際に指導・助言するための人材として、14年度から「環境診断士」を養成し、27年度末で24名の方が活躍しています。

また、環境診断士は環境市民会議のメンバーとして地域に根ざした環境保全活動も行っています。このほか、25年度からの3か年、中央大学と市との協働により地域診断を実施しました。その情報を中央大学生が集約・分析し、結果について3者間で意見を交換しました。

イ. 環境学習リーダー

環境市民会議の活動を適切に支援する人材として、環境診断士と同様、14年度から環境学習リーダーを養成しており、現在205名となっています。

環境学習リーダーは、各地区の環境市民会議に分かれ、その地区の特色を生かした様々な環境保全活動をリードするほか、小学校を対象に実施している環境教育支援事業にも携わるなど、地域での環境学習の促進において中心的な役割を担っています。

ウ. 里山サポーター育成講座

27年度より戸吹最終処分場用地の谷戸の形状を活かして、里山保全活動に携わる人材の育成講座を実施しています。講座では、保全活動の基礎知識を学ぶ座学から下草刈りや伐採などの実技を行っています。

初級講座として全9回の日程で行い、17名の里山サポーター修了生が誕生しました。修了生は市内の環境保全活動団体で活躍しています。



里山サポーター講座（伐採木の玉切り）

(2) 環境市民会議の活動支援

市内を6つの地区に分け、市民・事業者の皆さんが自発的に環境保全活動を実践しています。

会員数の拡充と活動の活性化を図るため、広報等で会員を募集。環境診断士、環境学習リーダーの活躍の場にもなっています。27年度は213名の会員が活動しました。

毎年8月には、各地区の環境市民会議の活動内容を知ってもらうため、環境パネル展を開催しています。



環境パネル展

4. 評価

ここでは、基本施策Ⅲ—1 環境教育・環境学習の推進についての評価結果を掲載します。

成果指標

指標名	計画策定時	中間目標 (H30)	最終目標 (H35)	前年度	H27 実績
「エコひろば」における講座の受講者数	3,696 人	5,000 人	6,500 人	6,422 人	6,364 人
	中間目標に向けた評価	評価理由		今後の展開	
	順調	中間目標を上回る受講者数を達成できた。		講座等の開催を継続し、広報やホームページ、Facebook、ポスター等で講座の告知、受講者の募集を行う。	

基本施策の評価： ほぼ目標を達成した

<市内部での総括評価>

新たに、あったかホール等紹介DVDの作成や人材育成講座の開催など環境学習の拡充を図っている。また、清掃工場等の工場見学者数も伸びている（前年比23%増）。中核市移行に関連して都内初の「体験の機会の場」の認定を行った。

<今後の展開>

環境教育、環境学習を継続して実施するとともに新たに、戸吹クリーンセンターとその関連施設を利用し、環境学習を含むイベントを開催する。

<環境推進会議での相互評価>

小学生から環境教育を行うことは、環境意識の向上を図る上で重要だと考える。引き続き教育委員会と連携を取りながら、環境教育を行っていただきたい。また、市民に向けた環境関連講座をシリーズで受講するといった、継続性のある講座の開催などの工夫もしていただきたい。

第2項 環境情報の提供、収集及び活用

成果指標

指標名	計画策定時	中間目標 (H30)	最終目標 (H35)
「エコひろば」SNS ページ登録者数	0人	3,000人	6,000人

(指標のねらい)

SNSなどで環境情報の共有が容易になることにより、より多くの人の環境問題に対する意識が高まり、環境保全活動への参加につながります。

1. 役立つ環境情報の発信

(1) 「八王子市環境白書」の発行

環境保全等に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、市の環境の現状及び環境基本計画に基づく施策の実施状況を明らかにしたもので、毎年発行しています。

また、これらに関わるデータは、データ集として同時発行しています。

(2) 「環境報告書」の発行

市内にある6か所の環境施設について、事業活動における環境配慮の取組状況に関する説明責任を果たすため、環境配慮の方針、目標、取組内容及び実績を毎年度公表しています。

■環境報告を発行している施設

1	北野清掃工場	4	北野下水処理場
2	戸吹清掃工場	5	戸吹不燃物処理センター
3	北野衛生処理センター	6	プラスチック資源化センター

(3) インターネットや広報による環境情報発信

市のホームページ(<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/>)において、環境情報を提供しています。

また、環境フェスティバル、夏の省エネ対策やダンボールコンポストなどをテーマにした広報紙として「エコシティ八王子」を発行(6月1日号)したほか、広報はちおうじで雨水貯留槽設置のPRを掲載(7月15日号)、不燃ごみの正しい分別を啓発する「ごみゼロ通信」を発行(10月1日号)しました。

(4) 環境学習室「エコひろば」

「エコひろば」でもホームページ(<http://www.ecohiroba.jp/>)を開設し、講座の日程や環境教育支援事業の状況など環境教育・環境学習に関わる情報を中心に提供しています。

また、27年度は「八王子市エコひろば」のFacebookページにて、イベント日程や自然体験講座等の開催など、役立つ環境情報を発信するために計71回投稿しました。

28年度からは「はちおうじ環境だより」と名称を変更し、より一層情報発信していきます。

2. 評価

ここでは、基本施策Ⅲ—2 環境情報の提供、収集及び活用についての評価結果を掲載します。

成果指標

指標名	計画策定時	中間目標 (H30)	最終目標 (H35)	前年度	H27 実績
「エコひろば」SNS ページ登録者数	0人	3,000人	6,000人	211人	247人
	中間目標に向けた評価	評価理由		今後の展開	
	やや遅れている	SNSページの認知度が低い ため、登録者数が伸びていない。		各種イベントにてPRを するとともに、更新回数や 内容を充実させ、新規登録 者数を増加させる。	

基本施策の評価 : ほぼ目標を達成した

<市内部での総括評価>

成果指標の「エコひろば」SNSページ登録者数については、環境フェスティバル（参加者55,000人）など大規模イベントでPRを実施したものの、登録者数は伸びていないが、広報紙などの様々な媒体により環境情報の提供を実施している。また、例年実施している環境関連のイベントに加え、新たに八王子水の日まつりを開催できた。

<今後の展開>

「八王子市エコひろば」のSNSページの認知度をあげるため、各種イベントでPRを行うとともに、他のSNSページとシェアをする。また、28年度からFacebookページのアカウント名を「はちおうじ環境だより」に変更し、投稿に対して「いいね！」をつけた人数を増やすといった目標を掲げ、環境についてさらに広く発信を行う。

<環境推進会議での相互評価>

「はちおうじ環境だより」を、より多くの人に関心を持っていただくよう努めていきたい。また、従来通り広報紙やチラシ等での情報提供に関しても積極的に行うとともに、町会自治会とも連携を図っていただきたい。